

◆居宅介護支援センター みすみ

管理者 廣田憲昭

(1) 体制

スタッフは常勤の介護支援専門員1名（管理者兼務）の体制で、介護保険での居宅サービス計画（ケアプラン）の作成、また、適切なサービス利用ができるよう市町村やサービス事業者、介護保険施設等と連絡調整を行い、在宅生活の支援を行った。

(2) 実績

大項目	小項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	契約者数	36	36	36	35	35	36	36	37	35	35	33	32	422
	新規契約者数	0	1	2	0	3	1	0	2	0	1	1	0	11
	契約解除(死亡、入所など)	1	1	2	1	3	0	0	1	2	1	3	1	16
	実績者数	33	33	33	32	32	30	33	32	33	33	32	33	389
実績	未実績者数(入院)	1	1	1	1	1	4	2	3	2	0	0	0	16
	相談件数	5	6	10	8	8	10	9	6	13	6	3	5	89
	介護保険申請代行	2	2	2	3	3	4	5	2	3	1	1	1	29
	事業所等との連絡・調整	65	78	98	87	81	80	79	70	88	83	62	66	937
	カンファレンス担当者会議	10	10	10	9	10	8	9	10	12	11	7	11	117
	居宅訪問回数	42	35	44	45	53	34	35	33	35	38	31	30	455
相談経路	本人・家族	3	3	5	3	4	6	6	3	9	3	2	5	52
	関係機関	2	3	4	2	1	3	2	3	2	2	0	0	24
	医師	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	MSW	0	0	1	3	3	0	1	0	2	1	0	0	11
	看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リハ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2017年度から要支援者の委託がなくなったため、延べプラン作成件数は389件で、前年度より7件減少した。また、早期介入事案が1件で、暫定プラン作成は3件であった。実績者数は月30名以上を維持することができたが、月平均は32名で目標の33名にはとどかなかった。

相談・介入依頼は89件で、家族・関係機関からの相談・依頼が多くかった。内容としては、介護保険の申請手続き、サービス調整などが主で、介護保険代行申請数は29件（新規・更新）であった。

契約者の地域別割合は、半数以上が^{※1}上天草市大矢野町で、男女比でみると女性が10%も高かった^{※2}。

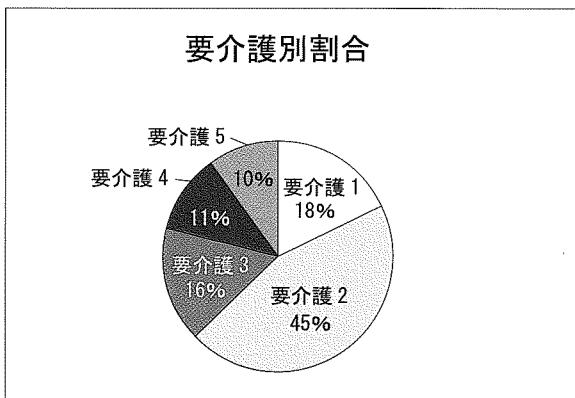
※1 宇城市33%、上天草市・天草市64%、宇土市3%

※2 男性45%、女性55%

要介護度別に見ていくと、要介護度1・2が全体の半数以上（63%）を占めており、また、介護度が重くなるにつれ在宅生活は厳しくなっていくが、要介護度4・5も21%を占めた。

契約解除者は16名で、理由としては介護保険更新を希望されなかつた方が2名、死亡が3名、要介護から要支援になられた方と在宅生活が困難になり病院、施設（老人保健施

設、特別養護老人ホーム等）に入所した方が5名ずつと最も多かった。（要介護から卒業できた方が5名いたことは自立支援に向けた取り組みができていることの評価と考えたい。）



世帯別（延べ）で見ていくと夫婦二人暮らしの世帯が141件、家族同居世帯が201件、有料老人ホーム入所者が62件であった。単身世帯はいなかったが、介護者が必要となり、仕事を辞め遠方から同居した世帯があった。また、老老介護が一番多く、体力・精神的な負担がとても大きく、介護者が倒れてしまうと在宅生活が困難になってしまうというリスクを抱えながら、毎日必死に生活されている姿が印象的だった。

(3) 次年度の計画

介護報酬改定が行われ、医療と介護の連携や自立支援・重度化防止の推進などに重点が置かれた。そのため院内併設の強みを活かし医療との連携、訪問・通所リハと協働し自立支援に向けた取り組みを強化していきたい。

当院周辺地域は老老介護世帯の増加、高齢化率の上昇が著しい地域であり、社会資源も少ないため、介護が必要な状態になっても安心して住み慣れた地域で生活できるよう、医療・介護の関係機関と連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供が円滑に行えるようサポートしていきたい。